



平成26年12月

第22号



丹後峰山の  
こんぴらさん

平成二十七年  
祭行事のご案内

初詣

大晦日より終夜参拝  
三ヶ日 御神酒 授与  
正月縁起物多数

※元日午前零時より、  
峰翔会(こんぴらさん応援団)が  
「甘酒」の無料接待を  
ご奉仕いたします。

一月十四日(水) 午前七時～  
焼納祭(どんど焼)

二月一日(日) 十二時  
節分 還暦初老祈願祭  
地域にかかわらず  
多数お申し込み下さいませ。

四月九・十日(木・金)  
春季大祭 吉例『宝籤』開催

「お伊勢さん 初まいり」  
伊勢参宮旅行  
参加者募集中  
二月十二日～十三日(木金)  
参加費一人二二,〇〇〇円

幻一木版画「百八煩惱一羅漢さん」展  
12.14(日)～12.21(日) 9:30～17:00



丹後親子で楽しむ  
こども論語塾

日時 2月8日(日)  
9:30～  
講師 青木順子先生

参加料 子ども 300円 大人 500円  
2ヶ月に1度日曜日に開催予定です。  
お子様だけでも大人だけでも、どなたでもご参加いただけます。



社内の屋内でお食事を 【開催日】 12/21 3/15 4/19 1・2月はお休みです  
「1day cafe」 第3日曜日 10:00～15:00 <http://konte1.com>



初穂料 各500円  
好評お授け中

金月比羅神社  
〒617-0001 京丹後市峰山町東一六五二  
電話 〇七七一八二〇二二五  
FAX 〇七七一八二五九九三  
mail info@konpirasan.com  
http://www.konpirasan.com

新年祈願承り中

家内安全 心身健勝  
商売繁盛 会社隆昌  
男女厄年 開運厄除  
合格祈願 学業成就  
海上安全 大漁満足

平成27年の厄年(教え年)  
平成9年生 19歳 女子厄年  
平成3年生 25歳 男女  
昭和58年生 33歳 女子大厄  
昭和54年生 37歳 男女  
昭和49年生 42歳 大厄初老  
昭和30年生 61歳 還暦

ちりめんの神に仕える



震災前の社殿と狛猫



罹災写真(右に台座から落ちた狛猫が見える)



復興再建中の社殿

# 狛猫

当社末社木島神社の「狛猫」は他に例のない珍しい存在として近年広く知られるようになってきました。「狛猫」とは「狛犬」のような石像猫のことで、あくまでも呼称です。正しくは「石猫」でしょう。実は奉納された当初はまさに石猫だったのです。

ちりめん業や養蚕業にとって絹や蚕を食い荒らすネズミは大敵で猫は鼠害から守ってくれる大切な存在でした。そこでちりめんの守り神を迎える際、犬ではなく猫がお仕えることとなったのです。

## 石猫から狛猫へ

木島神社は文政十三年(一八三〇)地元ちりめん業者が峯山藩の許可を得て山城国葛野郡(現京都

市右京区)の木島神社から養蚕の神をお迎えしました。その後天保三年に左側阿形あぎようの石猫が奉献されます。台座には、

「奉献 江州 外村氏  
石工 鱒留村 長谷川松助  
世話人 上河金七 吉田八郎助  
小室利七 天保三載 九月」

と刻まれています。

丹後とちりめんの商いを行っていた江州の外村氏がちりめん関係者の世話で松助に依頼して天保三年(一八三二)に奉献されたことが解ります。

一方の右側の台座には、「奉献 当所 絲屋中 弘化 参午 青紀」とだけ記されています。

右側阿形の猫が奉納されたのは弘化三年(一八四六)、つまり十四年間は左側阿形だけだったのです。はじめから狛犬に代わる阿咩一対の狛猫として計画されたが右側だけ遅れたのか、はじめは石猫一



右側阿形



石肌はまだらに

基だけの奉納だったが、後にそれに合わせて右を制作し狛猫として整えられたのか。

今となっては謎ですが、ちりめんちりめんの守り神に仕える一対の狛猫として整えられたことには変わりはありません。

## 長年の労苦と受難

奉献から百八十年を経て傷みも目につくようになりました。石肌がまだらになっていいるのは石の劣化によるもので、いずれ崩れだしてしまふことが心配されます。

昭和二年の北丹大震災の罹災写真には倒壊した社殿の前で台座から倒れてしまっている様子が写っています。損傷はなく無事再建後の社殿前に座り直しています。

長年の苦難を経て今日まで養蚕の神とともに丹後ちりめんちりめんの栄枯を見守ってきた歴史がその姿に現れているのです。

## 弘まる猫プロジェクト

狛猫を活用した町おこし事業も始まっています。きっかけは平成二十三年の御鎮座二百年祭に狛猫をモチーフにした陶製素焼きの「こまねこ」を制作、近隣の小学生に思い思いの色づけをしてもらい、境内に二百対の奉納展示をしたことです。

二百年祭以降は有志の方々が実行委員会を組織して「こまねこの町」を目指した活動を開始、近隣の商店主らが自ら絵付けをして専用の台に置いて各店頭に飾っているのははじめ、神社社務所の縁側には常に奉納展示しています。

またひと回り小さなものも加わりました。これには狛猫の由来にちなんで除災招福の祈禱を修め、縁起物として販売を始めています。毎月第三日曜日のこんぴら手づくり市で絵付け体験も開いており、峰山から「こまねこ」を弘めるプロジェクトが展開されています。

## こま猫の縁起物

全国でも例のない狛猫を訪ねて遠方からお越しになる方も年々増えていて、神社にいつもずらりと



町中の店頭に並ぶ「こまねこ」



二百年祭の二百対奉納展示



神社の縁側にいつも展示



こんぴら手づくり市での絵付け体験



祈禱を修めた「こまねこ」



二百年祭から登場した「こまねこ」



こまねこステッカー



こまねこ

狛猫御守

初穂料 五〇〇円

除災 招福

日本で唯一

狛猫絵馬

初穂料 五〇〇円

ご参拝の記念に



御菓子司大道の「狛猫もなか」

